

下肢静脈瘤の種類

手術
が
必要

伏在型静脈瘤



伏在型静脈瘤（ふくざいがたじょうみゃくりゅう）は皮膚に近い静脈が浮き出て、血管が太くなりぼこぼこした状態です。

脚の付け根の逆流防止弁が壊れた大伏在（だいふくざい）静脈瘤と、ひざ裏の逆流防止弁が壊れてふくらはぎに症状が現れる小伏在（しょうふくざい）静脈瘤にわけられます。いずれも静脈の直径が4mm以上になり太くなった状態の静脈瘤です。

側枝型静脈瘤



軽症
タイプ

側枝型静脈瘤（そくしがたじょうみゃくりゅう）は伏在静脈瘤から枝分かれした、やや細い血管が浮き出た状態になる静脈瘤です。

血管のコブは2～3mmに拡張していますが、伏在型静脈瘤と比較すると小さい静脈瘤です。

軽症
タイプ

網目状静脈瘤



網目状静脈瘤（あみめじょうじょうみゃくりゅう）は青く細い血管が見えることが特徴です。皮膚表面にある静脈が蛇行しています。

クモの巣状静脈瘤



軽症
タイプ

クモの巣状静脈瘤は赤く細い血管がクモの巣のように皮膚にひろがって見えます。

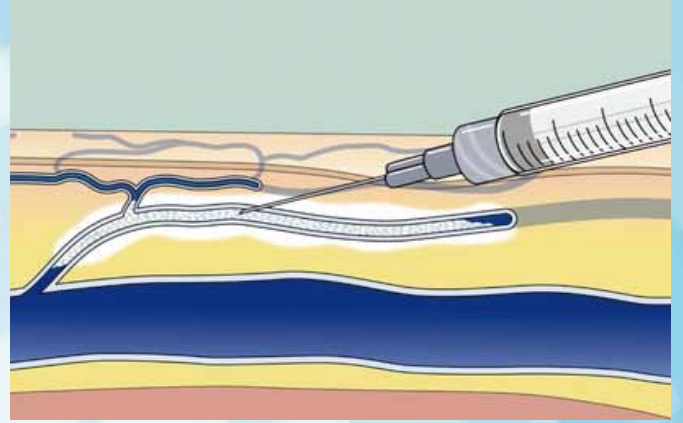
クモの巣状静脈瘤が進行して伏在型静脈瘤になることはありません。

か し じょう みやく りゅう 下肢静脈瘤の治療方法



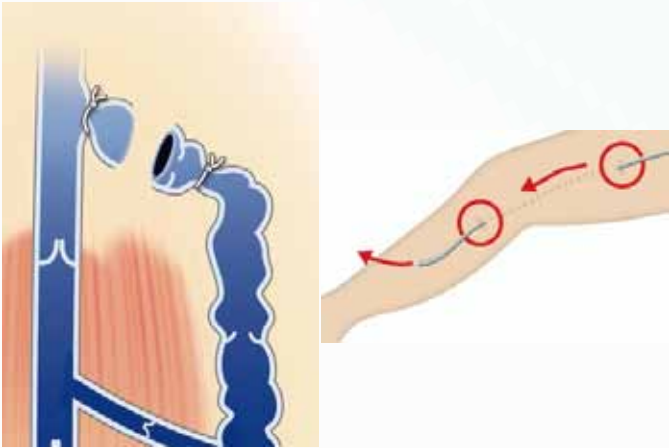
圧迫療法

皮膚を切ったり注射をしない治療です。最も代表的なものが「弾性ストッキング」による治療で他の治療と組み合わせて実施されることもあります。



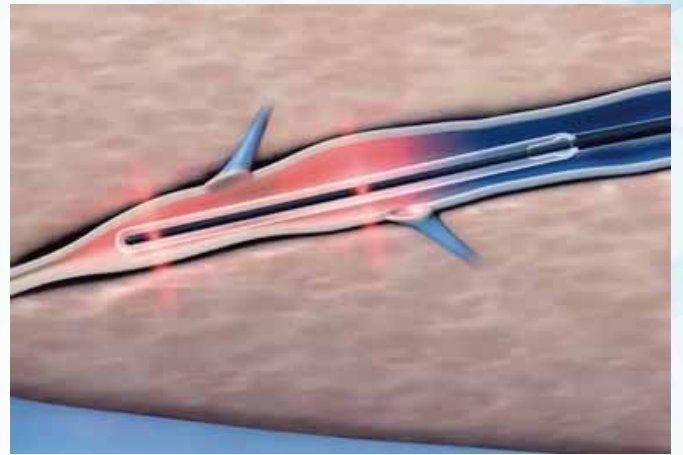
硬化療法

手術をせずに注射で静脈瘤を治す治療法です。細い静脈の治療に向いています。



手術療法

静脈瘤となった静脈を切って縛る「高位結紮術（こういけっさつじゅつ）」や皮膚を切って静脈を引き抜く「ストリッピング手術」が代表的です。



血管内治療

近年保険適用となった最新の治療法です。レーザーや高周波を使用し静脈の逆流を止める「血管内焼灼術（けっかんないしょうしゃくじゅつ）」という治療法です。